

山の温泉便り

湯本学区のふるさと交流情報誌

第4号

2018年4月9日
湯本学区ふるさと
交流実行委員会

山の温泉便り 第4号 2018年4月9日発行

発行者/湯本学区ふるさと交流実行委員会

事務局 西和賀町ふるさと振興課
岩手県和賀郡西和賀町川尻40-40-71 TEL:0197-82-2111

湯本学区のお店 / shop!

地区にあるお店を紹介します。ぜひお越しください！



◆ひさご 【元祖すっぽんラーメンの店】

麺を中心に提供中で、おすすめは町内でも珍しいすっぽんラーメン！すっぽんエキスとコラーゲンたっぷり。スタミナをつけたい男性にも、お肌を気にする女性にもおすすめなので、是非お越しください。

【定休日】無休（不定休）
【時間】17:00～23:30
【電話】0197-82-3271
【住所】西和賀町湯本30地割80-6



◆えびす寿司 【寿司】

先代より受け継いだ本格江戸前寿司。新鮮なネタで握る寿司は絶品！なかでもオリジナル新メニューの「岩魚の押し寿司（季節限定）」がオススメ。鍋料理もあります！

【定休日】水曜日
【時間】11:00～22:00
【電話】0197-82-3311
【住所】西和賀町湯本30地割80-11
【駐車場】店隣にあり

湯本学区 周辺の おいしいもの vol.2

西和賀の雪玉 ほろりん

さくさくのそば粉クッキー。そばの香りと胡桃の香ばしさが鼻をくすぐります。
和三盆の上品な甘さで、いくらでも食べられそう。



工藤菓子店

住所：西和賀町湯本30地割82-1
交通：湯田ICから7.4km
電話：0197-84-2606
営業：7:30～19:00
定休：不定休

金と銀のフィナンシェ

飴色の焦がしバターをたっぷり使った優しい味のフィナンシェ。
西和賀町産のはちみつとそば粉を使って作り上げた一品。
パッケージもかわいいです。



お菓子処たかはし

住所：西和賀町湯本30地割8-1
交通：湯田ICから7km
電話：0197-84-2917
営業：7:00～19:00
定休：不定休



春一番
みつけた！
（福寿草）

ゆだ雪まつり実行委員会作「ゆだ雪あかり」（撮影日 2018年2月11日）

あちらこちらから花の便りが聞こえて来ております。ふるさと西和賀は大雪だったこの冬も穏やかに、次の季節に移りつつあります。ばつかけ顔を出し、山では木口から土肌の黒土が見え始め、今は急に黒色が勢を増しているオロセ状態です。

第4号は冬の行事が主体となりました、豪雪の中でも楽しみは作れております。特に雪あかりは雪所の自分達の作る喜びから観光行事になり、一瞬西和賀の人口増にもなっております。

春彼岸を終えると春に向かいます。田畑はまだ1m以上の雪原ですが、その下ではごそごそと春に向かっていく気配が伝わってきます。それと次回号からは新年度地区役職の変更により、私も含めふるさと交流実行委員が半数位変わる予定です。新しいスタッフでふるさと便りをお届けいたします。ご期待ください。毎回手探り状態で満足度に足りていなかったと思いますが、皆さんの便りに励まされ感謝でした。これからも末永い交流につなげたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

湯本学区ふるさと交流

実行委員会

会長 高橋 武男



湯本学区 出身者からの寄稿

嬉しさと淋しさ 槻沢出身 佐々木さん

「山の温泉便り」を楽しく読ませてもらっています。町内に暮らしていても、例えば『若者住宅』が活用されて若者が入居されているとのこと、嬉しく心がほっこりと温まる感じがしました。又、反面、空き家の情報を目の当たりにすると心から淋しい気持ちになります。この空き家の活用は、これからの課題のようにも思えます。

「懐かしき日々」は私達と同世代と思うと一層懐かしい1ページでした。応援と言える程ではありませんが私もシルバー人材センターを利用させて頂きアルバイト的な仕事ですが、楽しく働いています。気持ちだけでも若さを維持し、若者達を微力ながらも応援していきたいと思っています。団塊の世代と呼ばれて久しい私達ですが少しでも地域に貢献していきたいと思っています。

小学校の冬の朝 匿名さん

いつもすてきな「山の温泉便り」を送っていただき、ありがとうございます。

今頃は、すっかり雪景色なのでしょうね。毎朝、湯田の積雪量をヤフーのランキングで確認をしては思いをはせています。

小学6年生になると週番があって、朝早く登校して各教室のストーブをたきつけました。杉の葉、前の日に準備した細いたきつけ（それを割るのも小学生の私達でしたね。）それから太い薪を重ねて火をつける。それが終わると昇降口で下級生を待って、雪にまみれた体をほうきで払う。そのうち追いかけてこが始まって…

そういえば秋の一日、杉の葉拾いを子供達でしたのですが一人、すみすご「？」ひとつというのに私は苦手でした。いつも最後の一人になってしまい、みんなから少しづつもらいできるだけ浮かして、やっとひとつを仕上げました。

「山の温泉便り」を手取る度に、忘れていた記憶が浮かびあがってきて、楽しいひとときになります。ほんとうにありがとうございます。雪掻きも大変なことでしょう。ご愛ください。第3号、「表紙」から始まり、すべての写真がとてもすてきでした。



「槻沢 茅葺き屋根の家」平成30年3月7日撮影（撮影者：実行委員会事務局）

ご寄稿頂きありがとうございます。引き続き皆様のご寄稿を募集しています。その他、みなさんの知りたい情報などもあれば、お気軽にお問い合わせください。

長松垢離取り

1月28日、湯之沢地区に町内外から27人が参加して行なわれました。氷の張る沢に飛び込み身を清めました。



ほつとゆだ北日本雪合戦大会
湯田小学校グラウンド特設コートで毎年行われる雪合戦大会。集まった選手が熱戦を繰り広げます。

かまくらと雪あかり

製作：湯本温泉協議会



わんだほ〜2018

製作：特別養護老人ホーム光寿苑



湯本学区の人

国も地域も家族も平和が一番

下前で大正7年5月19日生まれだから、今年の誕生日が来れば満100歳だ。妻も亡くし、部落の歳頭となつてしまつたが、自分の頭も体もままならなくなり、家族に迷惑かけながら暮らしている。昔の『人生50年』は兎も角として、ここまで長生きするとは思わなかつたが、孫だけでなく曾孫まで見られたのは幸せなことだ。また、たまに訪ねてくる次男、三男や娘たちに会うのも楽しみだ。

それにしても今の時代は俺たちの時代とは違って「真面目に一生懸命」だけでは生きて行けないような世の中に見えて、これからの人は大変だなとつくづく思う。

変化の時代

自分の生きた100年は特に世の中が大きく変化した時代だったのか

CASE7

佐藤 清左エ門さん
【下前在住】

前列右から3番目 佐藤清左エ門さん

などと思う。世の変化は昭和30年代の前と後ではつきりとわかれるのではない。衣食住のほとんどが自給自足の生活が交換経済にとって代わり、今はそれが世界的規模で席卷し、混迷を深めているようだ。世の中い方向に向かつているのだから悪い方向へ向かつているのだから分らない。旧湯田町は町政施行後相次ぐ鉾山閉山やダム建設、移転と下り坂ばかりで人口も3分の1以下になつてしまつたしな。

自分は百姓の長男で何とか農業で生活できるようにと思つて、土地改良や機械化にそれなりに対応してきたが、戦後の近代化を推し進める国の考えも次々と変わり、輸入自由化が進んで肝心の米価が年々下がる中で兼業化が進み、規模拡大や複合化が求められる時代に取り残されてしまつたのか。田舎でも色々な働き方が広がり、自分の考えをしつかり持たないとやっていけないようだ。孫

はサラリーマンで奥州市に居を構えているし、我が家や地域がこれからどうなっていくのか多少心配な気もある。とにかく今は金を稼がないと暮らしていけない時代だから。悪いことをしないで正直に真面目に生きてもらえればそれでいいと思う。

忘れられない戦争

自分の人生で忘れられない大きな出来事のひとつは、やっぱり太平洋戦争従軍だな。満州へ向かう汽車の停車中にすれ違う列車に積まれた遺骨箱や沢山の負傷兵達を見た時は、自分もこのようになって帰つて来るんだろうなと思つたものだ。砲兵部隊だった自分は運よく戻ることができたが、孫や曾孫の時代になつても戦争だけは行つてもらいたくないと思う。

(聞き取り・文責…息子湯沢正)

謝湯雪中神輿

2月11日、湯本地区で行なわれました。今回で27回目。約80人の担ぎ手が集まり、地区を練り歩きました。



西湯會のメンバー
右から二番目が代表の佐々木勉氏

西湯會

湯本を観光地として盛り上げるため、平成3年10月に発足した会。主な活動は、錦秋湖マラソンの前夜祭と雪中神輿の企画運営で、雪中神輿が一番大きな活動です。

冬の西和賀は雪と寒さで暗く、当時はイベントらしいものは何もありませんでした。そこで何とか町を盛り上げようと、平成4年2月から雪中みこしのイベントを始めました。寒い中、裸同然のいでたちで神輿を担ぎながら町を練り歩く。神輿が終わると、寒さで冷え切った体を温泉で温める。温泉に感謝しながら入ると普段味わえない特別な温泉のありがたみを感じると言います。

担ぎ手は西湯會以外にも、岩手県はもとより、宮城、秋田、長野、神奈川、栃木、茨城からも集まります。女性の担ぎ手も多く、最高300人以上集まったこともあるとか！

イベント時には大体80人程の人達が西和賀に集まり、お昼は地元の食堂を利用し、お土産も買って行つてくれます。中には宿泊する人もいて、地元に貢献してくれています。そのお礼として、盛岡、花巻、北上から一関など岩手県内の各地、そして宮城県気仙沼などのイベントに行き、祭りを盛り上げています。

西湯會の代表は佐々木勉氏で、湯本在住68歳の開業医です。湯本地区のみならず西和賀町の赤ひげ先生で、地域医療のスペシャリストとしても活躍しています。

あかりの小径 part22

製作：下前地区・左草地区



あかりの小径 part22

製作：下前地区・左草地区



下前

下前厄払い人形送り

地区民が集ってワラ人形を作り、地区内を練り歩いて地区入口の木にワラ人形を取り付け、各戸の人数分の団子をワラ人形につるして参拝します。

現在は3月の第一日曜日に行われていますが、元々は旧暦の2月10日に行われていました。三尺(約1m)ほどのわら人形を作り、地区の境まで送っていきます。

当日の朝、各戸から一人以上が、柔らかくした稲ワラ1〜2把を持って公民館に集まります。分担して、頭・手・足・はばき(脚絆)^{きょうはん}・腰蓑^{こしみの}・袴^{かみしも}、御神体(男根)・木製の大小の刀・紙に書いた顔・丁髷^{ちやうまげ}を作り、それぞれを組み合わせて一体の人形を完成させます。出来上がった人形を

左草人形送り

左草のワラ人形は「ショウキサマ」と呼ばれ昭和28年頃まで続けられていましたが、何らかの事情により中断しました。その後、昭和62年から再開し、平成30年で32回を数えます。

中断する以前は旧暦の2月10日

に、左草地区(上左草)を上村・中村・下村に分け、それぞれの旧家にワラを持ち寄り、上村では女、中村では男、下村では女と、男女3体のワラ人形を作っていました。

できあがった人形には、ソバ粉で作った団子を持たせます。これは病がソバに寄らないようにと掛けたものです。その他、穴の開いた銭を持たせて上村から順に出発し、中村・下村と合流し、老若男女連なってムラはずれ(豊沢の入口)まで送り、道橋の太木に結わえて拝みました。

左草

上座に据えて御神酒をいただき、人形送りが始まります。

ホラ貝と太鼓を先頭に、その年の厄男が人形を肩車にして、上村から各家の門口で御神酒をいただきながら村はずれまで歩いていきます。この道中の間、小中高校生が交代でホラ貝と太鼓を鳴らし続けていきます。これにより、まだひそんでいる悪霊を誘い出し、人形と共に送り出します。地区のはずれに来たら人形を道路の側の樹に高々と括り付け、各家族の人数分の団子を人形の肩や腕に託し、御神酒を備えて地区民と家族の安全を祈ります。その後御神酒をいただき公民館に戻り、宴会となります。

人形送り

Ningyo Okuri

下前地区と左草地区に伝わる伝統行事「人形送り」。
今回は、両地区の行事の様子を紹介します。地区にはどんな違いがあるでしょうか？
文章は西和賀町観光商工課のものを引用しています。

復活後の人形送りは、新暦の2月10日に近い休日ということで、2月11日の建国記念日に行うようになりました。

朝8時半に公民館へワラを持ち寄り、男女二体の人形を作ります。ニラミのきいた顔を半紙に描いて付け、二本の脇差と担ぎ棒をつけて完成です。出発前に男女二体の人形に御神酒をあげ、腕に各家の人数分の団子をワラミノで通したものをかけ、全員で無病息災を祈願します。午前11時頃、人形を送り出してムラ外れ(ゴエモンノ)まで送り、松の古木に高々と二体を結わえ付け、みんなで見張りをお願いして終わります。

